

## 第4回 口腔機能って何だろう？

＝ 「口腔機能」は、感覚、認知、運動の機能と関係している ＝

北九州在宅医療・介護塾  
塾長 久保 哲郎

先ず、「捕食⇒咀嚼⇒嚥下」等の口腔運動機能がスムーズに行われるためには、五感（視覚・聴覚・味覚・嗅覚・体性感覚）などの感覚機能と、理解・判断・論理等の脳の高次機能、つまり認知機能が適正に機能しなければなりません。

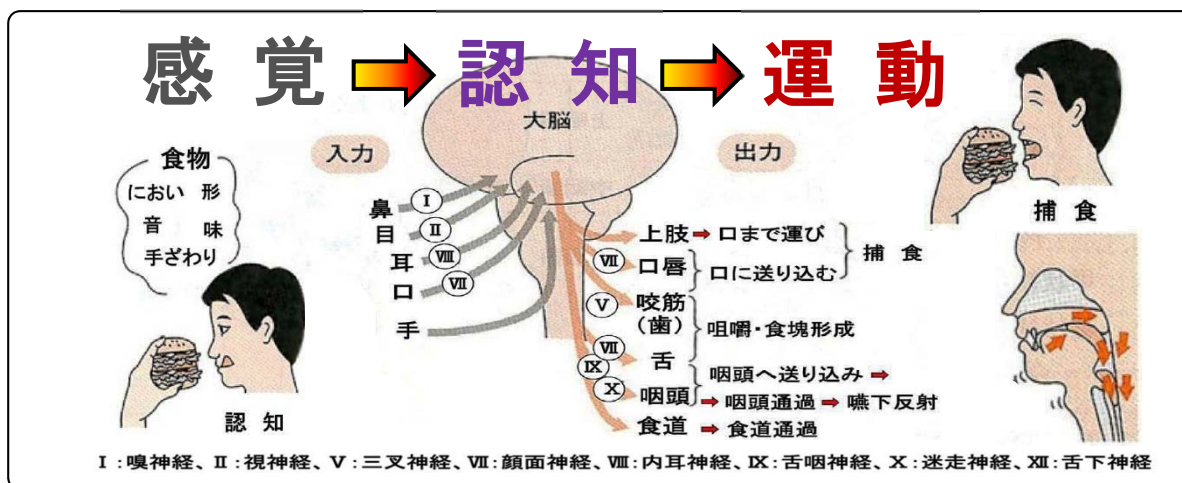
例えば、目の前にある飲食物に対して、どのような形をしているのか、固形物か流動物か（視覚）、どのような臭いがしているのか、刺激があるのか（嗅覚）、等の五感情報が脳に入力され、以前食べた時美味しかった、雑誌でこの食物は健康に良いと書かれていた等の他様々な記憶を思い起こしながら、「それでは食べてみよう」という判断（認知）を下した結果、手や箸、スプーン等を使用して口腔内に入れる（捕食）こととなります。

口腔内に収まると、口唇、舌、口腔粘膜、歯根膜や咀嚼筋等から、再び五感情報が脳に入力され、この情報を認知した後、し

っかり噛まなければならないのか、噛まないで飲み込むだけでよいのか等について様々な運動情報が脳から顎、顔面、口腔（口唇・舌・咽頭等）の捕食・咀嚼・嚥下機能領域に出力されることによって、捕食⇒咀嚼⇒嚥下が可能となります。

ところで口腔機能（捕食・摂食・嚥下、構音・発語）に関係する脳神経は、脳から直接出ている12本の脳神経のうち8本が関係しているといわれています。

「人間の進化」は、人間が「充足した生活」を求めることによって生じたものと考えられており、さらなる「充足した生活」を営むためには口腔機能と脳との連携は極めて甚大で、「人間の進化」＝「脳の進化」という意味合いで、時の経過と共にQOL（命の質）を高めるために脳神経と口腔が緊密に連携（感覚⇒認知⇒運動）せねばならなかったのでは・・・。



(藤島一郎著「動画でわかる摂食・嚥下リハビリテーション」中山書店、2008)